

若桜鉄道

鳥取県

鉄道ファン垂涎の旧国鉄路線。鳥取県東部の八頭町と若桜町を結ぶ19.2kmの若桜鉄道だ。開通は1930（昭和5）年12月1日。当日は天候にも恵まれ、駅周辺では列車の発着ごとに花火が打ち上げられ、装飾を施した露店も数多く出店。町中お祭り騒ぎだったという。以来、沿線住民の通勤通学の足として、また、地域産業、経済の発展を支える要路として貢献してきた。しかし、山間部の過疎化、基幹産業である林業の衰退に伴い利用客は減少。廃線の危機が迫るなか、住民と行政の存続運動で1987（昭和62）年、第3セクター若桜鉄道㈱に引き継がれることとなり、今日まで営業を継続している。「資金はかけられませんが、可能な限り地道にPRを続けてきました。近年は多くの鉄道マニアや団体客をお迎えする機会も増えてきています」と同社の矢部雅彦代表取締役専務が教えてくれた。週末はイベントの準備などで大忙しだと苦笑するが、どこか楽しそうな表情を見せる。2008（平成20）年には終着駅である木造平屋の若桜駅の駅舎やプラットホーム、機関車の方向転換のための転車台に加え、八東川に架かる鉄橋など鉄道に関連する沿線の23施設が国の登録有形文化財に登録された。田園や川沿いをガタゴトと走るかわいらしい車両を眺めていると、今が令和の時代であることを忘れそうになる。

若桜駅の夜景を撮ろうと粘っていると、ラウンジとして整備、開放されている駅舎の一面から密やかな声が聞こえてきた。鳥取からアルバイトを終えて帰ってきた二人組の高校生。駅で待ち合わせをして女子トークに華を咲かせている。ほの暗いレトロなラウンジで、なんと贅沢な時間を過ごしていることか。あと5、6年もしたらこのひと時の貴重さを改めて思い返すことになるのだろう。若桜鉄道がその思い出を紡ぎ続けていく。



開業間もない昭和初期の若桜鉄道。若桜鉄道は、開業前の明治20年から30年頃、山陰を結ぶルートとしていくつか検討がなされた。その後、1922（大正11）年に公布・施行された改正鉄道敷設法の別表第88項では、「鳥取県郡家ヨリ若桜ヲ経テ兵庫県八鹿附近ニ至ル鉄道」とされ、山間を貫くルートが計画された。最終的に若桜鉄道は郡家―若桜駅間にとどまる開通となったが、昔も今も地域の人々の暮らしを支え続けている。（提供：若桜鉄道㈱）

